

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	吉備国際大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キビコクサイダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	社会科学部・経営社会学科
	担当教職員名・役職	井勝久喜・社会科学部長三村光弘・キャリア戦略センター長
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	17
	受入企業等数	12
	受入企業等名	高梁市役所環境課、両備ホールディングス株式会社、株式会社ビザビ、株式会社電通西日本岡山支社、株式会社紀伊國屋書店クレド岡山店、操山公園里山センター、株式会社サンキョウエンビックス、倉敷市役所環境政策課、高梁市役所消防署、平林金属株式会社、山陽映画株式会社(現 株式会社RSKプロビジョン)、株式会社倉敷国際ホテル
	インターンシップの分類	7.中小企業でのインターンシップ、8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
要素②	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ先企業の通常業務を体験するインターンシップ
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している、6.当該インターンシップは、選択科目として実施している、8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2
要素③	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	3年生を対象に、夏休み期間中に10日間のインターンシップ実習を学科基礎科目として実施している。科目名は「インターンシップ」。本科目では「実社会を経験し、有意義な大学生活を送る」をテーマとして、企業における実習を経験し、社会人としての基礎知識を身につけるとともに、その後の大学生活を有意義に送るためにはどうすればよいか、自分で考え、自分で行動できる能力を身につけることを到達目標としている。
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている。2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている。4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている。2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている。3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ担当職員が企業側と適宜連絡を取り、必要な場合には学生の支援を行っている。また、インターンシップ教員も実習前後で必ず学生から連絡を受けるようにしており、その都度指導を行っている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	5回の事前授業を行っている。1回目はインターンシップの意義やインターンシップに取り組む姿勢。2回目はインターンシップにおける注意事項の説明を行うと共に、インターンシップ先企業の説明。3回目はインターンシップの意義や学びの重要性。4回目はインターンシップ志望動機の書き方などの指導。5回目はインターンシップ実習に向けてマナーや社会人として求められるスキルなどを講義している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ実習報告書を提出させると共に、インターンシップ報告会を行いインターンシップ実習の内容や実習で学んだ事などについて発表してもらっている。
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ中は、毎日その日の業務目標と業務内容及び目標達成度等を記入した日誌を書かせ、その日誌をインターンシップ先の担当者に提出して、指導助言をしてもらっている。大学教職員は企業と連絡を取り合い、必要な場合には学生指導のために出向くことになっている。	
4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい	

要素④	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	毎日実習日誌を記入させ、企業の担当者から評価をしてもらっている。また、実習終了後に実習態度等を評価してもらおうと共に、総合的な所見をいただいている。学生には、実習内容と所感を記載した自己評価報告書を提出させている。また、報告会用のインターンシップ報告書を作成させている。評価に当たっては、これらの報告書類及び発表内容等を考慮したルーブリック評価シートを作成して評価している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	10
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	原則として1つの企業で10日間以上のインターンシップ実習を行っている。インターンシップ期間が10日に満たない場合には2つ以上の企業で合計10日間以上の実習期間を確保している。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ実習企業については、あらかじめインターンシップ実習の意義等を理解していただき、大学と企業との間でインターンシップに関する覚え書きを交換し、企業の理解を得ている。また、実習内容については企業と担当者が打ち合わせを行っている。企業による学生の評価等については④の3に記載したとおりである。
7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	社会科学部経営社会学科シラバス http://kiui.jp/pc/joho/jugyoukeikaku/keieishakai2017.pdf	
問い合わせ先	大学等名	吉備国際大学
	担当部署名	三村光弘
	担当者役職名	キャリア戦略センター・センター長
	担当者氏名	
	電話番号	086-231-3621
メールアドレス	mimura@office.jei.ac.jp	